



元気とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2025年11月10日 第1242「週刊五十嵐レポート」

人材再配置

11月7日付日経新聞、「大機小機」は「成長への人材再配置」。

最近米国で、業績順調な大企業が人員削減を発表するケースが散見。発表された計画ではより少ない社員で、より多くのビジネスをこなし成長を目指している。成長促進のため人員削減を後押しするのが、AIモデルの発達により、人間とAIの新たな役割分担が広がったこと。

人材の再配分で削減対象となるのは、知識労働のサポート業務を担う人材とホワイトカラーの管理職が多くを占めている。一方、求められる人材は専門的スキルを持つブルーカラー職、新しい技術や製品を開発するエンジニア、ビジネス獲得のため活動する営業職、エッセンシャルワーカー(日常生活を維持するために必要不可欠な仕事に従事する人:医療・福祉・介護・保育、物流・運送、小売り・販売、生活インフラ、公務員、第一次産業等)の担い手。

人材再配置が始まると、ホワイトカラーは人手不足に悩む職種への人材供給源になりうる。再配置では、人材の需給に応じた所得調整も必要で、リッチなブルーカラーという表現に違和感を持たなくなる。

オールドエコノミーのモノ作りの話。工場に大量発注が舞い込んだ。仮に通常は100の受注が500の受注になった。それも急ぎの仕事。そこで社長は通常の価格より値下げをして、社員には残業させて無事に製品を納めた。社長は喜んでいて、この工場は同業者が廃業していく中少しずつシェアを伸ばしていった。典型的なブルーカラーの仕事でAIで置き換えることはできない。

ちょっと考えてみよう。通常100の受注が500舞い込んできた。大きな会社なら量産のメリットで価格を下げてでも割が合う。小さな会社の容量は大きくない。従業員に残業させることは平準化に反するし、コストアップになる。値引きした上にコストアップ。逆に、急ぎのため、割り増し料金が可能だったが、提示しなかった。粗利増大のチャンスを潰した。大手と同じやり方だった。ランチエスター戦略でいうと、弱者なのに強者の戦略を行っている。一見非常識のようだが、大量の仕事は割り増しで受ける。もしくは分割で受注する。AI時代でブルーカラーは生き残るかもしれないが、戦略は必要。

ちょっと
気になる出来事

11月7日付日経新聞、「鶏や魚介ハラルラーメン インドネシアで活況」という記事。

インドネシアがイスラム教の戒律に沿ったハラル対応のラーメンの「修行場」になっている。豚骨ラーメン店「一風堂」を運営する力の源HDは、イスラム法が禁じる豚由来の成分を使わないラーメンの新店を開いた。現地でノウハウを磨き、他のイスラム圏への進出の足掛かりにする狙い。

鶏や魚介から出汁を取ったラーメンで豚を一切使わない。食材は調味料を含めハラル認証品を用いる。将来はマレーシアやドバイ他のイスラム圏も出店の候補とする。

日本語留学生の中にバングラデシュ人が多い。彼らはイスラム教徒。日本に来て日本料理は食べないし、イスラム教徒が作るハラル料理しか食べない。

中国人の中でも新疆ウイグル自治区出身者はほぼイスラム教徒である。豚肉は食べないし、日本のインスタントラーメンは食べられない。

ハラルラーメンは日本でもニッチで面白い。



一口メモ
知識

指導者の資格 3

自分の力ではなく天命よってなれたという謙虚さがなければ、人の指導者は務まらないものだよ。

礼儀正しくなければ、指導者の立場を維持できないし、次に、相手の言葉を的確に判断できなければ、人の指導なんかできるわきゃないさ。

「高校生が感動した『論語』」(祥伝社新書/佐久協)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

